

2004年(平成16年) 10月23日17時56分

中越地震の記録

写真提供…柏崎日報社



液状化で陥没した穴に落ちた車(刈羽村)



大きく傾いた信号機(鏡町)



災害対策本部



避難所の様子



新潟県中越地震 各地で大きな被害 市内では北条、小国では犠牲者も

23日午後5時56分ごろ、新潟県中越地方で震度6強の地震が発生。その後も強い余震があり、各地で大きな被害の大きかった北条市町、液状化で周囲が地盤のようになり、家や電柱が傾いた(24日前)。

柏崎市では、最初の地震で震度5弱を観測したことから、午後6時半に市役所に災害対策本部を設置。被害状況の調査や電気、水道などのライフラインの確保に全力をあげているが、28日現在で15世帯が断水している。

地震発生当時は夕食時だったが、幸い火災の発生はなかった。また、柏崎刈羽原子力発電所での事故もなかった。発生直後から市内

全線で停電したこと、各地区コミュニティや小中学校の計66か所が避難所が開校され、最大で6673人が避難した。新潟地震を体験した人々からは「あの時(昭和39年6月)よりも恐怖を感じた」と、寒さと停電で一晩中怖かったなどの声が聞かれた。

市内の小中学校は25日は10校で休校。26日は北条市小、北条中、北条北小学校、北条中学校で休校したが、27日は降は通常の体制となった。

道路の陥没や住宅の被害は北条地区に集中しており、今後は道路や住宅の復旧が本格化することが見込まれている。避難所が近づくにつれて、対策が求められるところだ。



柏新時報

〒945-0066 柏崎市西本町1-8-17
 編集 柏新時報社
 電話 (0257) 22-2232
 FAX (0257) 24-3613
 印刷 印刷 印刷 印刷
 1部175円 1か月700円

「柏新時報」
10月29日の記事より

地震直後の柏崎信用金庫と周辺の様子

2007年(平成19年) 7月16日10時13分

中越沖地震の記録



店内の被害状況 ①



店内の被害状況 ②



店内の被害状況 ③



店内の被害状況 ④



倒れたブロック塀



地盤沈下した本店前の通り 写真提供: 越後タイムス社

柏崎の各地の様子



脱線した車両 写真提供: 柏崎日報社



歪んだ線路(JR越後線) 写真提供: 柏崎日報社

「柏新時報」
7月21日の記事より

JR復旧は未定
地震の影響で、JR柏崎駅構内で越後線新潟行き2両編成の先頭車両が脱線、米山第一トンネル内では走行中の貨物列車が停車した。また青海川

駅が土砂崩れでホームの一部が埋まった。現在、この不通区間は、信越本線犀潟駅と宮内駅の間、越後線柏崎駅と吉田駅の間で、被害の規模や現場の作業条件等から復旧する見込みが「復旧時期は未定」(柏崎駅、渡辺希潮駅長)としている。



発行所 柏崎日報社
柏崎市西本町1丁目6-1
〒945-0066 電話22-3121
専売所 柏洋社 電話22-3443
1部100円 1ヵ月2,650円

煙突折損 復旧は先

市がごみの対応に苦慮

中越沖地震

十六日に起きた中越沖地震により、市と刈羽村の二

つの焼却ができない状態だ。市では通常通り、週三回は、高さ六十メートルのコンクリート製の煙突が地上二、三十メートルで折れ、燃やす

ごみの焼却ができない状態だ。市では通常通り、週三回は、高さ六十メートルのコンクリート製の煙突が地上二、三十メートルで折れ、燃やす

ごみの焼却ができない状態だ。市では通常通り、週三回は、高さ六十メートルのコンクリート製の煙突が地上二、三十メートルで折れ、燃やす

ごみの焼却ができない状態だ。市では通常通り、週三回は、高さ六十メートルのコンクリート製の煙突が地上二、三十メートルで折れ、燃やす



傾いた煙突
写真提供: 越後タイムス社

市による、煙突の重さで仮煙突を建てるのに約四カ月かかるという。焼却施設の安全確保は余震もあってまだできない状態で、ここに損傷があればさらに復旧に時間がかかる。回収したごみは、一時的に市内に仮置きし、近隣自治体の焼却施設に搬入することになるが、夏で生ごみの腐りやすさ、悪臭などの発生源となることから、市で対応に苦慮している。

また、至急始末したい粗大ごみ、燃えないものは当初、市内宝町の旧松王スト跡地に持ち込みとしていたが、結果的にいろいろなごみが搬入されたため、国道8号と周辺道路の渋滞に拍車をかける形となったため、市は十九日に同跡地への搬入を中止した。後日、町内単位で収集する方針だ。

「柏崎日報」7月20日の記事より

(1) 第3104号 (昭和21年2月12日第3種郵便物認可)

THE HAKUSHIN JIHO 平成19年 (2007年) 7月21日

中越沖地震

ガス、水道一刻も早く ライフライン復旧に全力

16日午前10時30分に発生した「新潟県中越沖地震」で、柏崎市は大きな被害を受け、ライフラインの復旧に全力を挙げている。

市対策本部のまとめ(19日現在)によれば、全壊家屋が9008棟、ガスは3万2079世帯、水道は3万5351世帯で供給停止している。また、19日現在の避難所は68カ所、避難者は3817人。

ガスと水道の復旧について市では「水道は、配水管に水を通し漏れの有無を確認しながらの復旧作業のため時間がかかっているが一部で給水を開始した。できれば25日までに市内全域の給水をめざしたい。また、給水車は現在、290台が動いて水を配っている。



【懸命な救出作業】写真上は坂井ケンさん(84)が生還した東本町2の救出現場。下は安否確認中の西本町1での捜索作業。

「柏新時報」7月21日の記事より

「柏崎大震災」だ

「まさか、こんな大きな地震が来るとは思わなかった」

3年前、中越沖地震を経験した市民にとって、これら共通した感想ではないだろうか。

16日に発生した中越沖地震は市内中心部をはじめとして全域に大きな被害をもたらした。大きな被害は、全壊家屋が9008棟に達した。大半が古い木造住宅である。3年前の地震を耐えた土蔵づくりの家も多い。

突然として立ちつくす人の姿が目立つ壊れた家の前で、また家族や食器が散乱した建物のなかで、思考が止まってしまったかのようだった。

17日午前市内の被災地を視察した会田市長は実際に被災者の目撃談を聞き、中越沖地震の際に、目に見えた被害がなかった。そのままだと、これら共通した感想ではないだろうか。

16日に発生した中越沖地震は市内中心部をはじめとして全域に大きな被害をもたらした。大きな被害は、全壊家屋が9008棟に達した。大半が古い木造住宅である。3年前の地震を耐えた土蔵づくりの家も多い。

突然として立ちつくす人の姿が目立つ壊れた家の前で、また家族や食器が散乱した建物のなかで、思考が止まってしまったかのようだった。

17日午前市内の被災地を視察した会田市長は実際に被災者の目撃談を聞き、中越沖地震の際に、目に見えた被害がなかった。そのままだと、これら共通した感想ではないだろうか。



「柏新時報」7月21日の記事より

中越沖地震の記録

2007年(平成19年) 7月16日10時13分

写真ドキュメント 中越沖地震



住居などの建物が倒壊し、道を塞いだ市内東本町3。住らないうが、被災に地方の人たちは「古い家がなかったら……」と重宝に思っていた16日



地震発生、柏に降りつづいた豪雨の中、避難民の食糧配布。島上り15日、柏市小湊



大勢の避難民などが救急車で運ばれた市内北半田の刈羽総合病院16日



豪雨の斜面が崩落し、大量の土砂が避難民を襲った。15日、柏市の東川駅17日



路面が大きく陥没した市内半田2の道路。周囲も波打つ状態となった16日

「柏崎日報」 7月19日の記事より

「越後タイムス」 8月3日の記事より

既設地震計の針も振り切れた 揺れの強さ、想定値の約2.5倍

東京電力は七月二十日、柏崎刈羽原発で観測した地震データを経産省原子力安全・保安院に報告した。それによると、全七基の殆どの個所で、揺れの強さを示す加速度の最大値が設計時の想定値を上回り、3号機タービン建屋一階の上部付近では、設計時の想定値の約二・五倍の二千五百八ガルの揺れを記録していたことが分かった。

1、5、6号機に設置されている既設の地震計では、測定限界の一千ガルの超え、針が振り切れた箇所もあった。新設地震計（三十カ所）が二

千ガル以上を測定できるのに対し、既設の地震計（六十七カ所）の多くは「千ガルまでが限界だが、東電では、これで充分」と認識していた。さらに固有な揺れの周期（往復時間）を持つ建物に対して、地震の揺れがどの程度の地震動（破壊力）を与えるかを表す「加速度応答スペクトル」も、大半の施設で、基準値震動を上回る応答があった。

「外観上異常なし」と東電3号機原子炉建屋内公開
東京電力柏崎刈羽原発は七月二十八日、使用済み核燃料貯蔵プールから溢水した3号機原子炉建屋の作業フロア、原子炉格納容器内部などを報道陣に公開した。東電担当者は、原子炉や周辺機器には、外観上異常は認められないとし、3号機に限定して公開した理由について「復旧が最も進行しているため」と説明した。

また地震発生時に、1号機で、使用済み燃料プールの水とともに原子炉からも溢水したトラブルを受けて、同日、県・市・刈羽村は安全協定に基づき立ち入り調査を行った。その結果、放射能レベルは一立方センチあたり四・一ベクレルで、他号機より桁低い数値であることを確認した。県の渡辺博文防災局長は「風評

被害が懸念されるため、急速立ち入り調査を行った」と話した。
当初、東電は「定期検査のために原子炉の蓋は開放されていた。炉水プールの水は一緒に、両方から溢水したことは否定できない」と説明していた。



地盤沈下によって、土台がむき出しになった柏崎刈羽原子力発電所の建物
写真提供：柏崎日報社

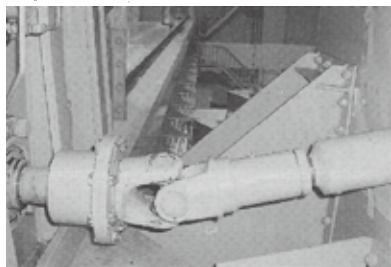
原子炉用クレーンも破損

24日までに63件の被害を確認

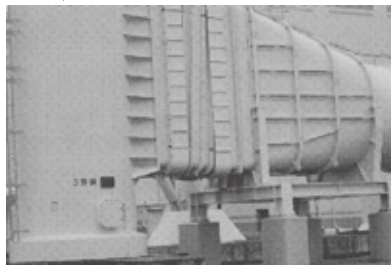
東京電力は二十四日、中越沖地震の影響により、6号機原子炉建屋の天井クレーンを駆動させる軸の継手に破損を確認したと発表。これで二十四日までに原子炉自動停止四件を除いて、六十三件の被害が確認された。

構内の被災状況を公開

天井クレーンは原子炉内の点検時や核燃料の交換時に、格納容器や圧力容器の蓋を吊り上げるための装置で、破損はレール上の車輪と車軸の接続部二カ所で確認された。クレーンは原子炉の真下であり、重量は二百十トンもあるため、東電の勝俣社長は十八日、「原発の重要施設はまったく問題ない」と発言したが、原発心臓部の真上で極めて重大な被害があったことになる。



破損した6号機天井クレーン (写真提供/東京電力柏崎刈羽原子力発電所)



主排気筒のダクトにずれ (3号機)

「越後タイムス」 7月27日の記事より

2007年(平成19年) 7月16日10時13分

中越沖地震の記録

THE HAKUSHIN JIHO 平成19年(2007年) 10月5日(毎週金曜日発行)(週刊)

「復興」を聞く②

佐藤信金 理事長

商店街再開発に期待
リスク踏む覚悟も...

柏新時報

〒45-0166 柏崎市西本町1-6-17
 編集 柏新時報社
 電話 (0257) 22-2292
 FAX (0257) 24-3613
 郵便口座 00660-0-443番
 1部200円 1か月800円
 編集兼発行人 長島利義
 印刷 小田茂典



復興や住宅関連などで、仕事が増えている。佐藤理事長は、柏崎信用金庫理事長の佐藤信金さんに、金庫の期待、課題などを聞いた。

産業界について最も懸念していることは、佐藤理事長は、一部で被害の大きいところもあるが、比較的早く地震後の態勢が立ち上がった建設関係も、公共施設の

70件程度の動きしかない。運転資金が主であり、設備資金が主で、設備資金が現状。もう少し時間がたつと、設備資金ニーズが出てくる。また、自宅の再建にしても、まだ本格的な動きにはなっていない。これから動きが出てくる。本格的な動きへの対応は、(佐藤) 当面の資金需要に、企業向け、個人向け合わせて、30億円の特別融資枠を設けた。低利で貸出。復興を応援する。というのだ。もちろん「30億円」というのは、全体の被害額に比べると小さい規模なので、二次、三次と追加していくことになるだろう。

大事なこと、(佐藤) 踏み込むべきか、というところ。言い換えれば、ある程度リスクを背負う覚悟をしなければ、柏崎の復興を後押しできないと考えている。

柏崎に本店がある金融機関として、柏崎が良くならないと、私たち(信金)も良くならない。今回は特に「多少の無理をしても復興を後押しをする」という姿勢で臨むことで、結果的に復興が進み、「地元」に信金がある。

に前向きな発言が多く、元気を出す場になっていくと期待している。気になったのは、柏崎市からの出席が「部長級」だったこと。市、商工会議所が一体となって「ダッシュ」という声があつたように、産業界は一体となった動きを期待している。会田市長は上京中だったと聞くので、副市長が、収入役が出席すべかったのではないかと、苦言を呈しておきたい。

最後に気になることを、(佐藤)「自衛モード」に居る人が多いので、節度は必要だが、やれるだけの行事を中止すべきではない。安易に中止している傾向があり、このことは地域の「元氣」をいじめている。

今回の信金杯学童野球大会は、球場確保に苦労したと思う。特に子どもたちに関係する行事、イベントは無理をしても実施すべきだと思う。有り難うございました。

「柏新時報」 10月5日の記事より

KASHIWAZAKI SHINKIN BANK 90th Anniversary — 40